

黒毛和種の効率的な採胚（受精卵採取）技術

畜産技術センター 碓高原牧場

要旨

分娩後、早期に2回続けて採胚した後、早期に受胎・分娩させるサイクルを繰り返すと、受胎・分娩による生殖器のリセット効果により、3年間では受胎させずに採胚を続ける従来法に比べ、採胚効率が大幅に上昇する。

成果の概要

- ① 分娩後3.3年間に計9.4回の採胚を行う当場従来法を変更して本法では分娩後早期に2連続採胚を行ってから早期受胎を図り、次産以降も同様に繰り返す方式とする（図1）。
- ② 2連続採胚と受胎プログラム（表1）は、分娩後35日目に臍内留置型黄体ホルモン製剤（CIDR）を挿入し、過剰排卵処理を開始する。1回目採胚は分娩後55日目、2回目採胚は分娩後83日目に行うことにより28日間隔の2連続採胚を実施する。2回目採胚後6日目からCIDR併用定時授精法（CIDR-Ovsynch）を開始して人工授精を行い、早期の受胎を図る。
- ③ 1回当たりの平均正常胚数は10.9個が得られ、従来法の6.1個よりも採胚成績は有意に優れる（図2）。
- ④ 供胚牛が10才になるまでの子牛生産頭数を試算すると本法では従来法よりも21頭上回り、生産性の高い採胚方式である（図3）。

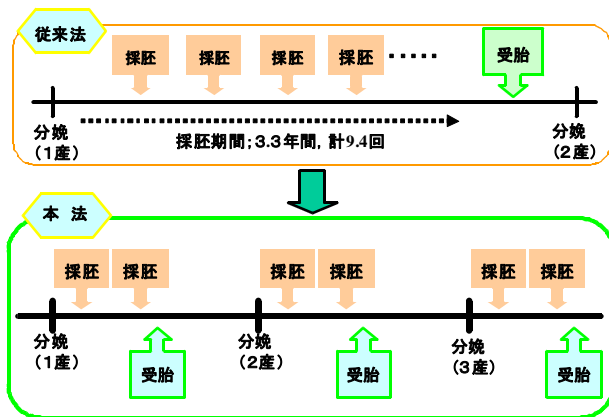


図1 採胚方式の変更

分娩後日数	35	44	45	46	48	49	55	69	72	73	74	76	77	83	89	98
分娩							1回目採胚							2回目採胚		
	CIDR挿入	過剰排卵処理			人工授精	人工授精		CIDR挿入	過剰排卵処理			人工授精	人工授精		CIDR-Ovsynch開始	受胎用人工授精

表1 2連続採胚と受胎プログラム

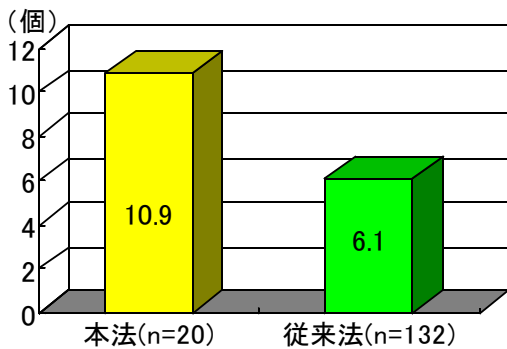


図2 採胚1回当たりの平均正常胚数

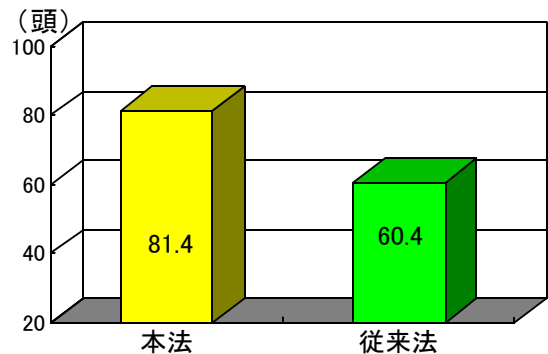


図3 供胚牛1頭当たりの子牛生産性(試算)

(問合せ先 : 0772-76-1121)